

南相馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）パブリックコメントに寄せられた意見と市の対応方針

項目	意見等	市の考え方
<div>1</div> 第1章 人口ビジョン 全般	<p>人口について考えたとき、人口を増やす、人口を維持する、高齢化率を抑える、出生率を上げる、といった展望は持つべきではない。この地域の人口が平成7年をピークに減少傾向にあったとするならば、もう20年（震災の前でも15年）もの間その傾向を抑えられないでいたということであり、さらに震災の影響を考慮に入れると、既存の施策の延長上で人口減少の流れに棹差すことは事実上不可能であると考えて差し支えない。</p> <p>人口は減るもの、高齢化は進むもの、出生率は下がるもの、という展望の元で南相馬市としてどのようにして生き延びていくのか、そこを施策の中心に据えて欲しい。</p>	<p>ご意見のとおり、本市の人口は20年にわたって減少し続けてきました。確かにここから人口を増やすどころか人口を維持することも困難なことであると認識しております。</p> <p>しかしながら、その大きな要因となっている東京圏への人口の一極集中の是正について、国を挙げて取り組むこととしている今だからこそ、その流れを止める、あるいは弱める大きなチャンスと捉えております。</p> <p>それでもなお今回策定した人口ビジョンにおいては、今後目標を達成したとしても大きく人口が減少するものと想定しておりますが、その減少幅を可能な限り小さくするべく、各種施策に取り組んでまいりたい考えです。</p>

項目	意見等	市の考え方
<div>第1章 人口ビジョン</div> <div>2 4 人口の将来展望</div> <div>(2) 目指すべき将来の方向</div>	<p>③高齢者が活躍できる社会づくりやることで、②生産年齢人口を回復するための施策への重点化、④移住者を積極的に受け入れる土壌作りにも繋がることは間違いありません。それは、以前から何かあるごとに、③高齢者が活躍できる社会づくり「高齢者ユートピア構想」です。現在では、市民の間からも多く聞かれるようになりました。なぜ必須か再度、次に述べます。</p> <p>1、国内、あらゆるところで高齢者問題が噴出している。他市に先駆けて造ることにより、センセーションを巻き起こし、移住者を呼び込める</p> <p>2、若い方々ばかりに頼るのではなく、動けない介護必要者を施設に入ってもらえばかりでなく、動ける高齢者がお互いに助け合うことができる場作り</p> <p>3、ユートピア内（市内のある区域を設定する場合もあるが、市内全域の考え方もあります）には、動ける高齢者が働ける（勿論、若者も多いに働いてもらうばかりでなく、高齢者同志が助け合う）事業など、あらゆる高齢者活動（スポーツ、レクリエーション、食事、習い事、介護教育学校等あらゆる諸施策）を可能とする</p> <p>4、高齢者を、特に家族では介護しきれない・いや共倒れしてしまうので、施設にお願いしたい。その時に施設がなく、入所できないでは、本当の福祉環境といえない</p> <p>5、現在、復興に伴うホテル、作業従事者用宿舎やアパートなど、必ずや何年か後には空き室が多くなり経営を、はたまた市財政を圧迫することになるのではないのでしょうか。その再利用にも多いに活かせる</p> <p>また、その経済効果は、わが市のあらゆる面に多大な繁栄を期待できる</p>	<p>ご意見のとおり、全国他自治体と比較して大きく高齢化率が高くなることが予想される本市においては、高齢者が元気に活躍できる社会づくりが不可欠と考えております。</p> <p>31頁にも記載のとおり、従来の「支えなければならない存在」とするのではなく、豊かな知識と経験を有する人生の先輩として、多方面で活躍できる環境を創造するため、各種施策に取り組んでまいります。</p>

項目		意見等	市の考え方
3	第2章 総合戦略 1. 趣旨	<p>南相馬市の現状を踏まえる前に、震災前から示している傾向に目を向ける必要がある。人口は減り続け、高齢化は加速的に進み、若年層の流出は止まらない。これらは震災の影響を受ける前からの継続的な課題であったはず。そこへ目を向けなければ、何もかもが震災のせい、原発事故のせい、という発想に陥ってしまいかねない。</p> <p>それを前提として踏まえただけで、震災の影響が重なったことが、悲劇的に問題の深刻化を早めたという認識を持つべき。</p>	<p>市としてもご意見のとおりと考えておりますので、ご指摘を踏まえP38の趣旨に文章を追加いたします。</p>
4	第2章 総合戦略 5. 基本目標 (1) 成果を重視した目標設定	<p>直ちに全員協議会「まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」を立ち上げなければならない。この協議会は、市の有識者を行政が選出してはならない。</p> <p>まずは、スケジュールにより期限を設定し、主旨を大々的にPRして、この指とまれではないのですが、何人でも、誰でも（市長・議会議員・行政職員は勿論のこと、市民、事業者を含む各団体など）参加できる。</p> <p>その中から、各役を立候補形式で選出し、揺るぎなく強い組織を形成して、物事を強力に期間内に決定していく。</p> <p>現在施行されている事業などにおいて、小さいことをちまちますることも大切ですが、それはあくまでも大局のない中ではうまくいかず、水泡になってしまうことを肝に命じなければなりません。</p>	<p>44頁に記載のとおり、今回の総合戦略における目標達成のため、適切な数値目標を設定し、その達成度合いの検証にあたっては、市内外の産業界（各区商工会議所・商工会）、教育機関（大学）、金融機関、労働団体（連合）及び移住者により組織する有識者会議が毎年度行うことを予定しております。</p> <p>具体的な開催方式については今のところ定まっていないことから、いただいたご意見を参考にさせていただき、できるだけ闊達な意見交換ができる場づくりについて検討してまいります。</p>

項目	意見等	市の考え方
<p>5</p> <p>第2章 総合戦略 5. 基本目標 (2) 3つの基本目標 ＜基本目標①＞若い世代の定住の促進</p>	<p>企業誘致は、一定の効果はあるものの、必ず一定で終わる。企業の都合（業績や経営方針等）に左右され一時しのぎにしかならず、本社機能に準ずる機能を持たない出先機関や工場の誘致は時代錯誤としか思えない。</p> <p>若い世代に欠かせないのが、若い世代が活躍できる場の創設と提供であることは当市の考え方と同様であると思われる。</p> <p>この地域は元々、住んでいる人たちの定住期間が長く、何世代にもわたってその土地に暮らしてきているという例も稀ではない。ならばまず、幾世代にも続いてきた就業構造を強化すること（跡継ぎの優遇）は定住策の一つとして考え得る。今までは主に一次産業においてのみ考えられてきたその優遇措置を全て見直し、跡継ぎが業務を承継することが「当市の利益となる」との認識の元で、自営業も含めて優遇していくことを提案する。ただし、一般的なサラリーマンは跡を継ぐことのメリットに乏しくその範囲には入れない。</p> <p>また、起業に対する優遇も市独自に実施していくべきで、若い世代の芽を摘むような愚は犯してはならない。</p>	<p>「企業誘致の推進」を若い世代の定住の推進に位置付けたのは、今回この総合戦略を策定するにあたって実施したアンケートにおいて、地元の高校生が南相馬市で働くための条件として、「経営が安定している企業」「やりたい仕事ができる企業」を選択した割合が高かったことと、他自治体在住者が南相馬市を移住先として選択するための条件として「就労先」を選択する割合が最も高かったことから、若い世代の定住を促進するためには、その選択肢をできるだけ多くすることが必要と考えたことによるものです。</p> <p>ご意見のとおり、若い世代の定住のためには企業誘致の推進のみでは撤退のリスクも孕んでいることから、「地場産業の支援」や「地域における創業支援」なども盛り込んだところです。</p>
<p>6</p> <p>第2章 総合戦略 5. 基本目標 (2) 3つの基本目標 ＜基本目標①＞若い世代の定住の促進</p>	<p>若い世代の活躍の場をつくるために忘れてはならないのが、高齢者の隠居である。高齢者は、益々活躍の場を求めていくことが良いことであるように考えているのかもしれないが、そのことが若い世代の活躍の場を奪い取っていることに目を向ける必要がある。若い世代を育てるためには高齢者の知恵と経験は必要だが、それ以上、高齢者に前のめりになってもらうことは避けたい。高齢者は人材育成にこそ活躍すべきで、その場を提供するのに市がいかに関われるのかを検討していく必要がある。</p>	<p>次代を担う若い世代が多くいる中では、ご意見のとおりできる限り若い世代にチャンスを与えられるような社会が望ましいと考えますが、このままいけば人口の半数近くが65歳以上となることが見込まれる中では、元気な高齢者の方も貴重な戦力と考えます。</p> <p>また、生産年齢人口が回復するまでには長い期間を要することが考えられる中で、幼稚園や保育所で保育士として働いていたり、医療機関で看護師として働いていただくことにより若い世代にとっても生活しやすい環境を少しずつつくっていくことで、いずれ若い世代に選んでももらえるまちづくりに繋がっていくものと考えております。</p> <p>以上のことから、今回の総合戦略において、高齢者の存在は非常に重要なものと考えております。</p>

項目	意見等	市の考え方
<p>7</p> <p>第2章 総合戦略 5. 基本目標 (2) 3つの基本目標 ＜基本目標②＞未来を担う人を育む環境の充実</p>	<p>ほとんど壊れかけていた地域の力が、震災によって破壊され、地域の外形のみを辛うじて維持させようとしている。この姿が今の南相馬市のように見える。</p> <p>隣組と行政区を廃止し、新たに地域自治会とその連合会を策定する。</p> <p>震災以降、他市町村民がいわば南相馬市民として生活し定住している例が顕著に増加している。災害復興住宅の例や、期間に制限はあるものの市内に存在する仮設住宅群でも明らかのように、これまでの隣組や行政区の枠の考え方では必ずしも対処しきれないことが容易に予想される。</p> <p>新たに住み始めた、人たち、集落だけを自治会扱いするのではなく、全市で地域組織の見直しを行い、隣組を廃止し、行政区の役割を撤廃し、新たに地域自治会を創設しその連合会を組織することが円滑に行政サービスを行き渡らせる上で必要である。</p>	<p>現行の南相馬市の地域コミュニティにおいては、行政区長を中心に、その中で各隣組単位でごみ集積場の管理や環境美化活動に取り組んでいただくなど、重要な役割を担っていただいております。</p> <p>ご意見のとおり震災後においては他市町村からの移住者や、市内の他地区からの避難者による集落ができるなど、これまでとは異なる環境となっておりますが、今以上に快適に暮らすためにはどのような体制が望ましいのか、実際に地域で生活する住民の声を吸い上げる必要があることから、今後の検討課題とさせていただきます。</p>
<p>8</p> <p>第2章 総合戦略 5. 基本目標 (2) 5つの基本目標 ＜基本目標③＞地域の絆づくりと安心生活の再生</p>	<p>当市全域において、多かれ少なかれ被曝してしまったのは事実である。ならばそれを逆手にとって、被曝や放射線に関する世界の知見と頭脳をこの市に結集させることを考えても良い。一時的なものではなく、恒久的に世界の被曝研究をリードする南相馬市を目指して欲しい。</p>	<p>東京電力福島第一原子力発電所事故により大きな被害を受けている相双地方が抱える様々な問題を解決していくため、放射線に関する調査や研究、原子力発電所の監視を行う施設を原町区萱浜地区に整備しています。</p> <p>ご指摘の点については、大変重要な視点と考えることから、上記の施設を核として放射物質に係る研究・調査を行っていくことについて加筆いたします。</p>

項目	意見等	市の考え方
<div>9</div> 第2章 総合戦略 5. 基本目標 (2) 5つの基本目標 <基本目標③>地域の絆づくりと安心生活の再生	<p>高齢化率に歯止めをかけることは誰の目にも非常に困難であることから、他都道府県の高齢者がこぞってこの市に住みたい、と思わせる取り組みを行う。日本中の高齢者に「骨を埋めるなら南相馬市で」と言わしめる施策を全市を上げて策定、実施していく。高齢化率全国一位を目指し、高齢者の住みたい街ナンバーワンを施策の柱にする。「ジジババのパラダイス南相馬市」構想である。</p> <p>高齢者が安心して住まわれる地域にするには、高齢者だけで地域社会を構成することでは達成できない。医療や介護においても、放射線被害の継続調査においても、高い水準を保てるよう人材が集まってくる地域にすることを考え、出る杭を打つような安直な従前主義を排除し、かといって東京権威主義（コンプレックス）を排除して南相馬市独自のシステムを築き上げる。老いを若きが支える、という構図ではなく、老いも若きも支えあうことで地域の絆は作られていく。</p>	<p>後段については、これまで述べてきたように、今回の総合戦略においては高齢化率の高い本市において高齢者の存在は非常に重要であり、若い世代を今後呼び込むためにも高齢者に対する期待は大きく、若い世代が高齢者を支えるのではなく、お互いが支えあう関係になることは、市としても同じ考えであると考えます。</p> <p>前段については、あくまでも南相馬市を持続可能で未来にわたって活気のあるまちにするためには、やはり若い世代の存在が不可欠であると考えますので、生産年齢人口の回復を大きな目標として据えていきたいと考えております。</p>